日野総合事務所だより

2011 Dec 第45号

日野郡の歴史
～たたら～

昭和御大典の祝賀に沸く根雨のまち（昭和３年）
※現在の島根銀行付近から上町を望む
【日野町歴史民俗資料館友の会所蔵】

鳥取県

P2 特集：日野郡の歴史～たたら～
◇語り継ぎたい「たたら」の歴史
◇日野高校生と巡るたたらツアー

P6 日野総合事務所管内の除雪対応

P7 間伐材を使った木造農業用ハウス
日野川源流米コンテスト

P8 環境学習のすすめ
特産品プレゼントコーナー

現在の山陰合同銀行付近から根雨の下町を望む（年代不詳）
【同会所蔵】

特集 日野郡の歴史

たたら

語り継ぎたい歴史がある。

かつて、奥日野は日本有数の鉄の生産地として活気にあふれていた。

この国の発展を支えてきた「たたら」の歴史を後世に伝えたい。

鉄穴流しの様子（年代不詳）

国を支えた「たたら」

古来から、鉄は武器や生活用具、農地を耕す農具、土木工事の道具として国の発展にとって重要なものでした。

日本では、千数百年もの間「たたら吹製鉄法」によって鉄が作られてきました。「たたら吹製鉄法」とは、粘土で築いた炉に砂鉄と木炭を入れ、風を送って木炭を燃焼させて砂鉄を溶かし、純度の高い鉄を生産する製鉄法のことです。中国山地では、鉄の原料となる良質な砂鉄が多く採れたため、日本の鉄生産の約9割を担っていたと言われています。

明治以降、効率的に鉄を生産する「西洋式製鉄法」の技術が取り入れられると、「たたら吹製鉄法」は圧倒されていき、大正時代にはその火が途絶えました。

しかし、「たたら」はそれまでの長い間、我が国の発展を支え続けてきたのです。

【写真説明】鉄穴流し（かんなながし）
★原料となる砂鉄を採るため、花こう岩の山を崩して土砂を水路に流し込み、比重の違いで砂鉄を得る方法。大量の土砂が流され水田耕作の妨げとなるため、秋の彼岸から春の彼岸までの農閑期に行われた。

明治初期、奥日野には巨大産業があった

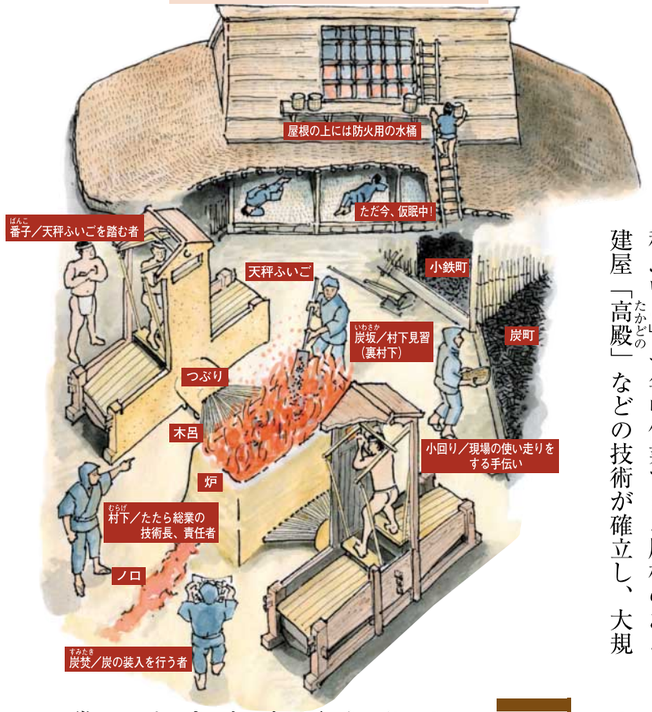
奥日野の鉄文化は古い。日野郡史によると鎌倉時代には日南町大宮で玉鋼を作っていたとあります。その高品質な玉鋼は「印賀鋼」というブランド名で売り出され、数々の名刀を生み出したと言われています。しかし、奥日野に残る神話や伝説、遺跡の出土品からは、もっと昔まで歴史はさかのぼると考えられています。

江戸時代になると、「たたら」の技術革新が進みました。「鉄穴流し」や「天秤ふいご」や年中作業できる屋根のある建屋「高殿」などの技術が確立し、大規模に鉄の生産ができるようになりました。いよいよ、この奥日野で鉄の生産が本格化するようになったのです。

江戸中期からたたら操業を始めた鉄山師・近藤家に残る古文書には、明治初期には奥日野で二十四山の鉄山が経営されていたと記録に残っています。一つの鉄山に大鍛冶、鉄穴流し、炭づくり、馬方などのアルバイトの村方を含め、約四百人が働いていたといわれますので、約一万人の人がたたら製鉄にかかわっていたことになります。

郡内に二十四もの工場を持ち、一万人もの生活を支えていた巨大産業が、当時の奥日野には存在していたのです。

〈 高殿の内部の様子 〉



「たたら」を地域の誇りに

今から約九十年前、大正時代に途絶えてしまった「たたら」。この地域を繁栄させた「たたら」の歴史が人々の記憶から消えていくことを残念に思った有志が、平成二十二年に『伯耆国たたら顕彰会』を立ち上げました。以降、日野町商工会と日南町商工会が進めてきた取組みを引き継ぎ、「たたら」を学べる資料館『たたらの楽校』の運営、小説『TATARA』（松本薫著、第35回鳥取県出版文化賞受賞）の出版など、活発な活動をされています。今年度、その活動が評価され、第24回山陰信販地域文化賞を受賞されました。

また、今年六月には『「たたら」魅力発信事業実行委員会』が発足しました。官民をあげて奥日野の「たたら」の魅力を全国にアピールしようと取り組んでいます。

「たたら」魅力発信事業実行委員会委員長の佐々木幸人さんは、「最近になって、”たたら“のスポットに地域外からのお客様が観光バスで訪れてくださるようになった。もっと魅力を発信していって、将来的にはまちの周辺産業が潤うような仕掛けづくりをしたい。この地域が活性化するよう目指したい。

奥日野には”たたら“という日本を支えた産業があり、このことを地元日野郡の方に誇りに思ってほしい。そのためにはまず”たたら“のことをもっと知ってほしい。」と話されていました。

たたら魅力発信事業実行委員会委員長、伯耆国たたら顕彰会会長
佐々木幸人さん

問い合わせ先
県民局企画県民室　電話0859-72-2083

日野高校生と巡るたたらツアー

日野郡のたたらの歴史を若い世代にも知ってほしい！ということで、今回は県立日野高等学校の生徒さんと一緒に「たたら」を学ぶ旅に出かけました。参加してくれたのは、地域の伝統文化「荒神神楽」を守り継ぐ活動をしている郷土芸能部のみなさん。さて、どんな学びが待っていたのでしょうか？たたらツアーのスタートです。

近藤家（日野町根雨）

江戸中期より操業を始めた鉄山師。日野の大庄屋、郡長を務め、地域の産業・教育・社会事業などにその名をとどめる旧家。

第９代当主　近藤登志夫さんに案内していただきました

★近藤家には推定数万点もの古文書が残されています（県立公文書館で保管中）。私有としては日本一、二の数といわれます。

特別に近藤家の玄関に入らせてもらいました。古民家好きなので、興味深かったです。

徒歩３０秒

たたらの楽校　根雨楽舎（日野町根雨）

日野町公舎（戦前は近藤家所有）を利用して、たたら製鉄に関わる当時の人々の暮らしや近藤家を中心とした「たたら」の歴史を紹介しています。

★日野川で鉄穴流しによって流された土砂は、現在の米子市全域の面積に積み重ねると1．9mもの高さになるといわれます。

一説には、弓ヶ浜半島や米子のまちは鉄穴流しによってつくられたとか･･･。びっくりですよね。

たたらを学ぶぞ、オーッ！

日野高校郷土芸能部のみなさん
左から西村さん、高橋さん、山口さん、阿部さん

たたらの楽校　大宮楽舎（日南町印賀）

旧大宮小学校を利用し、たたら製鉄の技術や歴史を中心に展示。たたらの原理をわかりやすく紹介するアニメ「名刀になった鉄之進物語」を上映。「たたら」とヤマタノオロチ伝説との関係やこの地で産出された「印賀鋼」について紹介しています。

【鉄之進物語】

アニメ化は、日南町出身の長谷川洋さんの全面的協力で実現したもの。親しみやすいキャラクターで「たたら」のことを楽しく学べます。

★ヤマタノオロチ神話が伝わる鳥取県（日南町）と島根県（奥出雲町）の県境にある船通山。その昔、この地を中心に産鉄地があり野だたらが盛んだったことから、オロチの真っ赤な目はたたら炉の火、長い大蛇の体は砂で濁った川の様子を表しているとも言われています。

★「印賀鋼（いんがはがね）」はたたら製鉄によって作られた玉鋼の有名な商品名（江戸後期）。この印賀鋼で鍛えられた日本刀は名刀として今日にも伝わっています。現在ではほとんど残っていないため、「幻の鋼」と呼ばれています。

玉鋼（近藤家所蔵）

荒神神楽と「たたら」がこんなに深い関係があるなんて知らなかった～。

楽楽福神社（日南町印賀）

たたらの原料の砂鉄を意味する「ササ」と生産の神の「福姫」を合わせたのが名の由来。安全と多くの砂鉄が採れることを祈願した神社。

★県西部には楽楽福という名の神社がいくつもあります。

部員が増えますように…公演が成功しますように

1分

5分

呼子山たたら跡（日南町菅沢）

明治期の近藤家の代表的たたら場の一つ。現在でも道や谷川に“かなくそ”（たたら製鉄で出る不純物、「ノロ」とも言う）がみられる。

金屋子神社

高殿跡

★たたら場には、たいてい金屋子神社がありました。金屋子神社の神様は製鉄の守護神。女の神様なので女性がキライということで、たたら場は女人禁制！ついでに犬もキライだそうですよ。

何かいいものないかな～。

日野高校郷土芸能部の活動紹介

平成7年に地域の後押しを受けて産声をあげた郷土芸能部。地域に残る荒神神楽を継承していこうと、年間20回以上の公演をするなど熱心に活動しておられます。近ごろでは、韓国や台湾など海外公演もこなす活躍ぶりです。

現在、部員は５名。日曜日以外のほぼ毎日、黒坂校舎の「鏡陵館」で練習されています。

「観る人を楽しませたい」「日本の伝統を守って伝えていきたい」という思いで、日々の練習に励んでおられます。

若い皆さんの活躍に今後も期待が高まります。

たたらツアーを終えて･･･

「日野郡出身だけれど、知らないことが多かった。」「たたらのことは初めて知ることばかりだった。」「たたら跡で“かなくそ”を拾ったのが楽しかった。」「玉鋼ができるまでの鉄之進のアニメがわかりやすくて面白かった。」などの感想がありました。

日野郡の学校に通っている生徒さんですが、「たたら」のことについては初めてのことばかりだったようです。これを機に、荒神神楽の伝統を守り継いでいくのと同じように、日野郡の「たたら」の歴史にも目を向けて、「たたら」を語り継いでいってほしいと願っています。

問い合わせ先　県民局企画県民室　電話０８５９－７２－２０８３